



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM '99 12月号

土器を学ぶ - 考古学入門講座開かれる -



平成11年度考古学入門講座 「土器の編年」

今回で4回目を迎えた考古学講座のテーマは「土器の編年」です。考古学は採集・発掘された資料から歴史を復元する学問です。時代・年代ごとに歴史を実証していくわけですから、その中で一番重要となるのが遺跡（遺構・遺物）の年代を見極める作業です。遺跡の年代がわからなければ歴史にはならないからです。年代を決めるのに、なぜ土器が使われるかの理由は、各時代に普遍的に出土し、しかも遺物の中で一番量が多く、形や文様の変化が富んでいるので、時間を計る「モノサシ」として適しているためです。土器の年代がわからなければ、土器が出土した住居址の年代がわからないことになります。

考古学の最初の入口が土器と言えるでしょう。土器の大まかな年代（縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良時代等）がわかると、時代ごとの生活様式の違いがわかってきます。さらに、細かい土器の年代がわかると、集落の構造や「もの」の交流がわかってきます。今年は神奈川県内の土器の編年に詳しい下記の先生を迎え、受講生にも大変わかりやすい編年の枠組みの話をしていただきました。この機会に、多くの土器を見て、自分なりの編年を組み立てて、歴史を再現するのも、歴史を学ぶ上での近道かと思います。

10月16日(土) 「縄文時代の土器編年」長岡文規氏(神奈川県教育庁)

10月30日(土) 「弥生時代の土器編年」伊丹 徹氏(神奈川県教育庁)

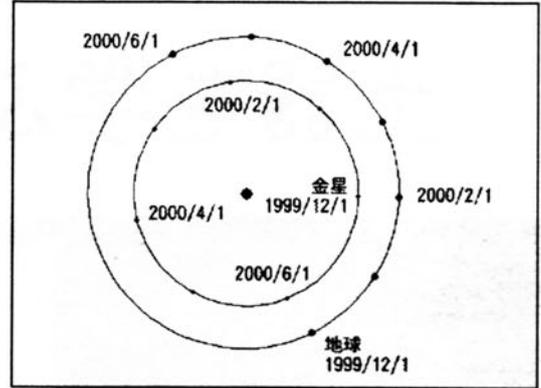
11月13日(土) 「古墳時代の土器編年」長谷川 厚氏((財)かながわ考古学財団)

11月27日(土) 「奈良・平安時代の土器編年」河野喜映氏(神奈川県教育庁)

『惑星の動き』(1月9日まで)

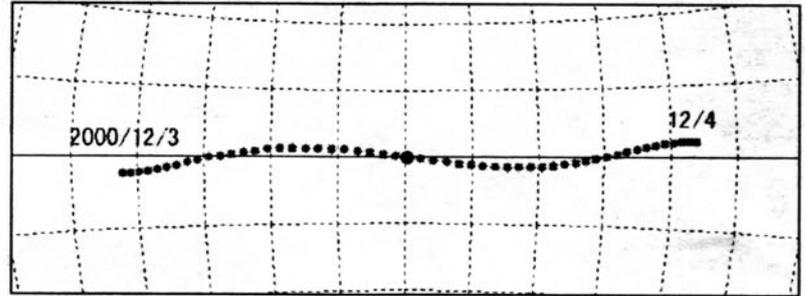
夜空で木星が明るい光を放っています。この冬は土星がややひかえめな弟のように近くにいて、おもしろい眺めとなりました。この両星は来秋にはその配列が入れ替わり、木星が東(左)側になります。プラネタリウムではこの二つの星を中心に主に外惑星の動きを解説しています。

ところで、投影では時間の都合であまり取り上げませんが、明け方の空には今、内惑星の金星が燃えるような輝きを見せています。この紙面ではそちらの今後の動きを紹介しておきましょう。



地球と金星の動き 1999年12月～2000年6月

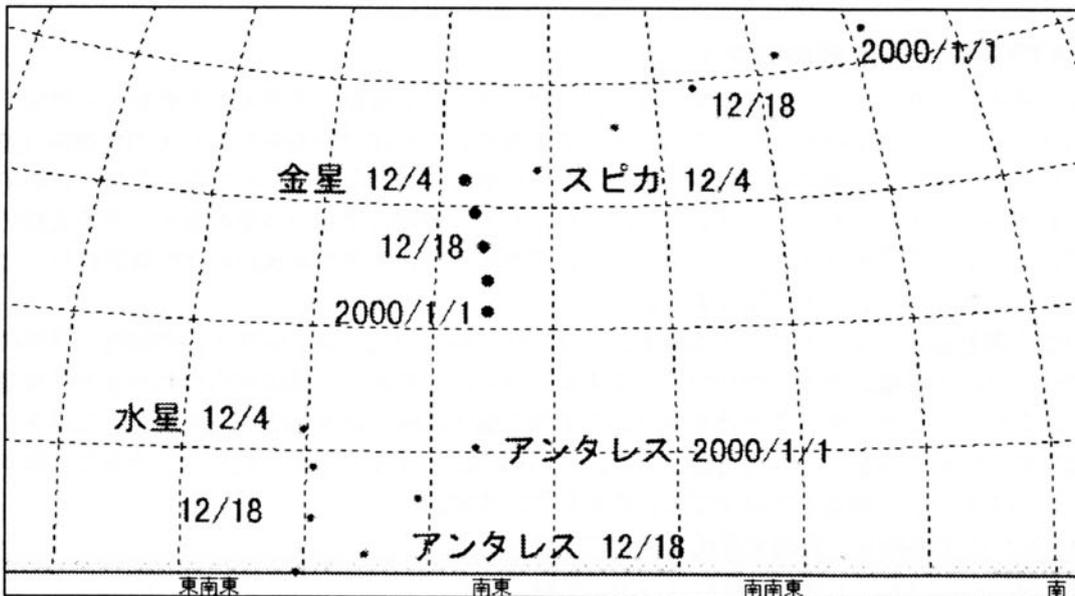
金星、水星の内惑星は、地球から見た場合、太陽からあまり離れません。このため、太陽が地平線に近い明け方か夕方、それも太陽と同じ方角の空に見えるのです。とくに明るい金星は「明けの明星」「よいの明星」などと呼ばれます。



地球から見た金星の動き(中央の大きい丸が太陽。右が西、左が東。点線は黄道座標で、10度おき) 1999年12月～2000年12月3日

金星は今年太陽と地球の間を通過、今は地球から見て太陽の西側にいます。徐々に太陽の向こう側に遠ざかりつつあり、2000年6月に太陽のちょうど向こう側を通過、その後は太陽の東側に回って宵の明星になります。

そこで今は毎朝同じころ東の空を眺めると、金星の位置が日ごと少しずつ下がって来ることになります。お正月は日の出が遅く、6時ころなら他の星もまだ見えますから、位置を確認してみましょう。



毎朝6時の金星の位置(1999年12月図はいずれもStella Navigator Ver.5によって作成)

プラネタリウム投影時刻 毎週土、日曜日と1月5,6日 11:00、14:00(休館日を除きます) *途中入場はできません

寄贈品コーナー「玉ねぎ石と七沢石―地質調査会の活動―」

展示期間：1999年12月1日～26日

今月の寄贈品コーナーでは東丹沢の厚木市七沢付近に特徴的に見られる二種類の岩石、すなわち玉ねぎ石と七沢石について展示します。

これらを作る岩石は凝灰岩と呼ばれ、丹沢が海底火山であった頃、火山灰や火山礫が堆積して形成されたものです。東丹沢では、この凝灰岩中に「玉ねぎ石」と呼ばれる、玉ねぎの皮をむくように幾重にも皮が剥けた丸っこい岩石が、道路沿いや登山道沿いによく見られます。これは丹沢が隆起して凝灰岩が地表に露出してから、風化作用によって形成されたものです。一日の温度差や季節の温度変化により、岩石が膨張と収縮を繰り返し、少しずつ小さな割れ目が生じ、その割れ目に雨や地下水がしみこみ、さらに冬季に凍結したり融解したり、夏期に乾燥したり、湿気を帯びたりの繰り返しで、徐々に亀裂が大きくなり、かつ数多くなっていきます。

割れ目はプレート運動など大地にかかる圧縮力によっても生じ、岩石が地表に露出する前の地下で応力がかかっています。隆起して地表に顔を出すと圧力が解放され、節理として2方向の割れ目が形成されます。

前に述べた玉ねぎ石を作る割れ目は、この2方向の節理にほぼ並行して、温度差や季節変化・地下水などの浸透により、次第に進行していきます。そして二方向の割れ目の交点のところが次第に丸くなり、玉ねぎとなっていきます。



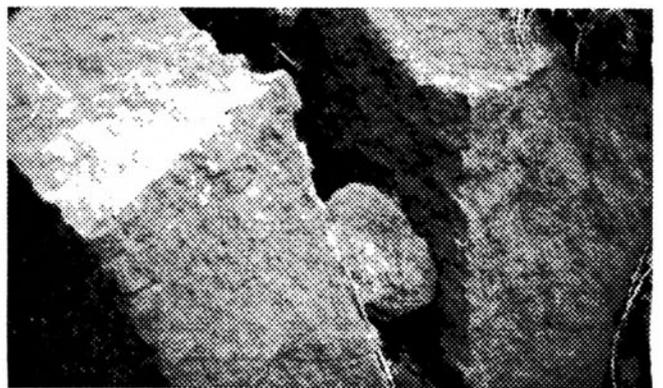
親玉ねぎの中に子孫玉ねぎが見える(画：島本三千枝)

地質学的にはこうした風化課程を「玉ねぎ状風化」と呼び、この構造を「玉ねぎ状構造」と呼びます。

東丹沢で玉ねぎ石がよく見られるのは、凝灰岩の内、粗粒ないし火山礫を含む凝灰岩で、縞目(層理)の発達していない塊状の岩石です。構成する粒子が細かい場合には小さな玉ねぎが、火山礫を含むような粒子が粗い場合には直径60cm以上に達する大きな玉ねぎが見られます。また、風化の程度により、親玉ねぎの中に子玉ねぎ、子玉ねぎの中に孫玉ねぎが見られることもよくあります。そんな関係をよく見ると玉ねぎの出来かたを伺い知ることができます。

もう一つの「七沢石」は県内の貴重な石材として江戸期からよく利用されてきました。現在でも路傍の道祖神や、神社の狛犬、石垣、階段、門柱、石塀などに見ることができる他、石臼や竈にも利用されました。この七沢石は玉ねぎ石と同じ火山礫凝灰岩が主で、双体道祖神など細かな彫刻を要するものには粗粒凝灰岩が、石垣などには粗い火山礫凝灰岩が使われています。縞の無い塊状の大沢凝灰岩層がその利用に最適だったようです。現在でも七沢の鐘ヶ岳東麓にはかつての丁場の跡が残っています。

なお、今回の展示の内、玉ねぎ石については、昨年度の地質調査会の活動で調査し、資料を収集しました。



のみの跡の残る七沢石

博物館カレンダー

1999年12月

2000年1月

1	水	☆	寄贈品コーナー「地質」 (~12月26日)	展示室
3	金		古文書講読会	講堂
4	土	○	こども観察会	大原
		☆	プラネタリウム「惑星の動き」 (~1月9日)	プラネ室
5	日		民俗探訪会	野外
9	木		石仏を調べる会	特研室
10	金		古文書講読会	講堂
12	日		地質調査会	野外
15	水		裏打ちの会	科学室
			地質調査会	特研室
17	金		古文書講読会	講堂
18	土	○	自然観察ゼミナル「鳥のねぐら」	野外
			相模川の生い立ちを探る会	鷹取山
			天体観察会「変光星」	屋上
19	日	○	体験学習「お飾りを作ろう」	科学室
		◎	ろばたばなしの会	展示室
			古代遺跡を探す会	野外
24	金		古文書講読会	講堂
25	土		空襲と戦災を記録する会	特研室
26	日		地質調査会	科学室

5	水	☆	寄贈品コーナー「考古」 (~2月13日)	展示室
7	金		古文書講読会	講堂
		◎	星を見る会「木星と土星」	屋上
			天体観察会「スターウォッチング調査」	屋上
8	土	◎	漂着物を拾う会	虹ヶ浜
			地質調査会	野外
9	日		民俗探訪会	野外
12	水		地質調査会	特研室
13	木		石仏を調べる会	特研室
14	金		古文書講読会	講堂
15	土	☆	プラネタリウム「2千年紀・夢」 (~2月27日)	プラネ室
16	日	◎	ろばたばなしの会	展示室
		○	自然観察会	丹沢湖
			地質調査会	特研室
19	水		裏打ちの会	科学室
21	金		古文書講読会	講堂
23	日		古代遺跡を探す会	野外
27	木		石仏を調べる会	特研室
28	金		古文書講読会	講堂
30	日		相模川の生い立ちを探る会	小仏

☆年末年始の休館 12月27日(月)から1月4日(火)までお休みします。

○体験学習 「お飾りを作ろう」
一文飾りや玄関飾りなどのしめ飾りを作ります。
日時：12月19日(日) 10時~15時
場所：博物館科学教室
定員：50名
申込：12月10日までに往復はがきで。
定員を越えた時は抽選。

☆寄贈品コーナー
「たまねぎ石と七沢石—地質調査会の活動—」
東丹沢の厚木市七沢付近によく見られるたまねぎ石と、石仏などに使われる七沢石について展示。
会期：12月1日(水)~12月26日(日)

☆プラネタリウム 「惑星の動き」
・期間：11月20日(土)~1月9日(日)
※土日の 11時と14時 ※観覧料：100円

○自然観察会 「丹沢湖の水鳥」
日時：1月16日(日) 午前8時~午後4時
場所：丹沢湖
申込：1月7日までに往復はがきで。30名。

◎星を見る会
「土星の輪と木星の衛星」
日時：1月7日(金) 19時~20時30分
場所：博物館屋上(集合は科学教室) 参加自由

◎ろばたばなし
相模地方の伝説と昔話を語ります。
日時：12月19日(日) 午後1時半と3時
場所：1階展示室民家内 参加：自由

☆：展示(無料)・プラネタリウム(観覧料)
○：申込制 ◎：自由参加 他は年間会員制

あなたと博物館 24巻9号通巻275号 発行 平塚市博物館 3000
〒254-0041 平塚市浅間町12-41 Tel.0463-33-5111 Fax.31-3949